

秋田市 新庁舎



贈呈理由 》 地中熱利用システムの導入により、電力負荷の平準化と災害時の熱源確保を実現



秋田市新庁舎 外観



中央吹抜「市民の座」

秋田市は秋田県のほぼ中央部に位置し、東には霊峰太平山を擁する出羽山地、西には夕日の美しい日本海が広がる、緑豊かな公園都市である。新庁舎の整備については、旧庁舎が建築後約50年を経過し老朽化が著しく、各部署庁舎が分散するなどの課題を解消するため、1988年に庁舎建設準備委員会を設置して以来長い年月をかけて建設に向けてさまざまな検討を重ねてきた。

そして、2014年には、「市民に親しまれ、市民サービスの向上を実現する、人にやさしい庁舎」など5つの基本コンセプトの実現に向けて庁舎建設が始まり、2016年に秋田市民待望の新庁

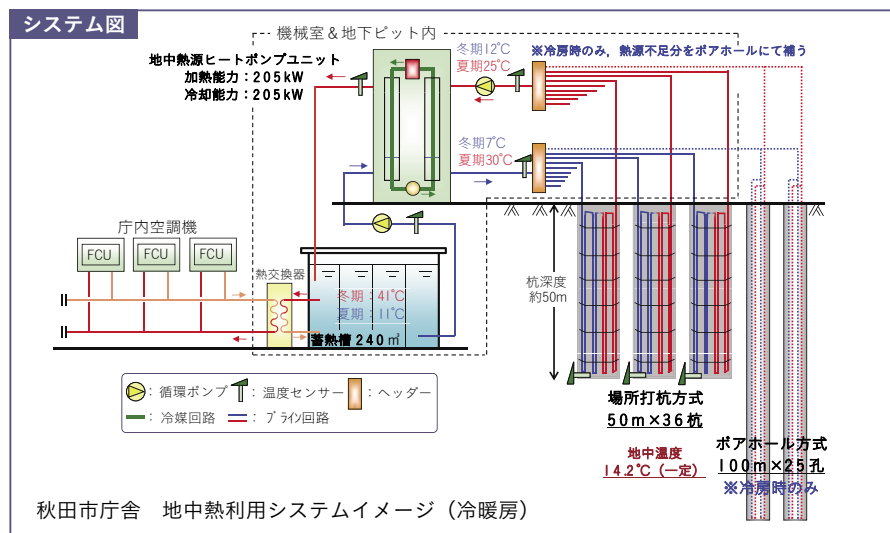
舎が完成した。

地中熱利用システム

「秋田市新庁舎」は、基本コンセプトのひとつである「環境共生に取り組む、地球にやさしい庁舎」を目指し、省エネルギー構造を採り入れており、建物中央部の吹抜け空間においては自然採光の他、自然換気・通風を行い、自然エネルギーを積極的に活用している。また、再生可能エネルギーである太陽光および地中熱を採用しており、地中熱については、空調および融雪に使用している。空調は高効率である地

中熱ヒートポンプユニットと地下にコンクリート製の蓄熱槽(240m³)を備えた水蓄熱式空調システムを導入し、蓄熱槽に夏は冷水、冬は温水を蓄熱させることにより、電力負荷の平準化へ寄与している。さらに、年間を通してこのシステムを熱源機の基本として運転することで、長期間にわたり、高い省エネ効果を維持できることから、環境負荷の低減が期待される。

今後は、市民の共有財産として、市民に親しまれ、人にも地球にもやさしい「秋田らしい庁舎」として、次世代に引き継いでいく。



秋田市新庁舎

所在地：秋田市山王1丁目1番1号
 建築設計：秋田市新庁舎建設設計共同企業体
 (日本設計・渡辺佐文建築設計・コスモス設計)
 建築施工：清水・千代田・シバヤ・田村建設工
 事共同企業体
 蓄熱設備設計：秋田市新庁舎建設設計共同企
 業体 (日本設計・渡辺佐文建築設計・コスモス
 設計)
 蓄熱設備施工：清水・千代田・シバヤ・田村建
 設工事共同企業体
 延床面積：30,964.86m²
 竣工：2016年4月(新設)

■蓄熱設備概要
 水蓄熱式空調システム 地中熱ヒートポンプ
 205kW × 1台 [日本熱源システム]
 蓄熱槽：240m³ (冷温水槽)